

磐田北小学校新たな学校づくり検討会議事録

■第2回 磐田北小学校新たな学校づくり検討会

1 日 時 令和8年6月21日（日） 10時～12時

2 場 所 見付交流センター2階 大会議室

3 出席者 （委員）

亀井暁子委員（会長）、小出信幸委員、齊木千尋委員、福田花緒理委員、
青島大委員、林浩巳委員、八木義弘委員（副会長）、小杉泰久委員、
寺田和芳委員、鈴木きよみ委員、渡瀬康人委員、飯田佳一委員、
金子貴正委員、青島正浩委員、大橋剛委員、名倉康二委員、吉村康宏委員、
河合玲子委員、鈴木優里加委員、青島美子委員、大橋弘明委員、
永島正巳委員

欠席 中西仁委員

（事務局）

教育長、自治デザイン課長、同主幹、同主査、学校づくり整備課長、同参事、
同担当職員

4 内容

（1）開会

（2）教育長あいさつ

（3）報告事項 事務局より

事務局より説明。

（4）検討会の進め方について 事務局より

事務局より説明。

会 長：何か質問やご意見があればお願いします。

委 員：検討会第2回及び第3回に「複合化検討」が予定されているが、第3回の検討
会までに複合化の方向性を取りまとめる予定ということか。

事務局：スケジュールについては現時点では案であり、今後の検討状況に応じて見直し
を行う。なお、検討が必要な事項については、引き続き協議を継続する。

（5）よつば学府の小中一貫教育の取組状況 事務局より

事務局より説明。

<質疑応答>

会 長：何か質問やご意見があればお願いします。

委員全員：なし

(6) 学校施設の整備事例紹介について 事務局より

事務局より説明。

<質疑応答>

会 長：何か質問やご意見があればお願いします。

委員全員：なし

(7) アンケート調査について 事務局より

事務局より説明。

<質疑応答>

会 長：何か質問やご意見があればお願いします。

委 員：教職員向けアンケートに記載されている「複合化（合築）」について、学校施設内に交流センターを設けることを指すのであれば、専門的な知識のない方にとってはイメージしづらく、複合化について不安を感じる可能性がある。複合化の内容については今後議論される事項であるため、「複合化（合築）」という表現についてはより分かりやすい表現となるよう検討した方がよいのではないか。

事務局：「合築」という言葉は専門的で分かりにくい面があるため、削除しても良いかもしれない。また、複合化のあり方については今後検討していく事項であることから、誤解や不安を招かないよう、アンケートにおける表現について検討する。

委 員：小学生の保護者の多くは、建替えに関する検討内容や現在の状況を十分に把握していないと思われるため、アンケート実施にあたっては、建替えの経緯や目的、複合化の意図、検討状況等を示した資料を併せて提供してもらえるとよい。また、アンケート項目の性別については、分析上必要な場合を除き、設問として設ける必要はないのではないか。

事務局：アンケートには現時点でも一定の説明を記載しているが、それでは不十分との意見であるため、建替えの経緯や目的、検討状況等がより分かりやすく伝わる資料の添付について検討する。また、性別については、分析時にクロス集計等で活用する予定はないため、設問から削除しても差し支えないと考えている。

委 員：「合築」という表現を削除するという意見もあったが、削除した場合には、今度は「複合化」が何を意味するのか分かりにくくなるのではないか。今回の資料にある学校の参考事例などがあれば、「合築」のイメージも持ちやすいと思われる。

アンケート実施前にプレゼンテーションの機会があるとよいが、実施が難しいのであれば、参考事例をアンケートに添付するのはどうか。

事務局：「複合化」について注釈をつけて説明を加えることを検討している。

委員：複合化には、建物を一体的に整備するという側面と、機能面で連携するという側面の両方があると思われる。しかし、「複合化」という言葉だけでは、そのような意味合いまで理解することは難しいのではないか。その結果、「複合化」という言葉が独り歩きし、回答者が誘導尋問的に回答する可能性があるのではないかと懸念している。

事務局：アンケートについては、さまざまな意見が得られるよう作成している。複合化については、小学校の建物内に交流センターを含めるのか、それぞれ単独で整備するのかを含め、現時点で市として明確な方向性を定めているわけではない。そのため、誤解や誘導と受け取られないよう、現在の検討状況が分かる説明を付した上でアンケートを実施したい。

会長：前提となる説明を踏まえて回答する場合と、アンケート項目だけで判断する場合とでは受ける印象が異なると思われる。設問の文言については十分配慮されていると感じるが、回答者が適切に判断できるよう、前提条件や検討状況を丁寧に説明することが重要ではないかと思われる。

委員：児童向けアンケートの設問3について、選択肢7に地域の人としておじいちゃん、おばあちゃんが記載されているが、現在、学校北側に支援センター「とことこ」があり、今後さらに連携ができればよいと考えているため、赤ちゃんや小さな子どもと触れ合える学校といった内容も加えてほしい。また、選択肢12の「他学年」という表現は分かりにくいので、「違う学年と距離が近い」「違う学年と交流できる」といった表現に修正していただきたい。設問4について、平和の大切さや裸祭などの地域の歴史・文化を未来に継承し、子どもたちが身近に感じられるようなホールや展示スペース、展示廊下等の項目を追加してはどうか。子どもたち自身からは出にくい視点かもしれないが、地域の歴史や文化に触れる機会として重要であると考えため、選択肢として設けてほしい。設問5について、「中庭」および「遊具広場」を選択肢に追加してほしい。遊具広場は老朽化が進んでいるため、子どもたちがどのように感じているのか把握できるような設問としてほしい。

事務局：修正を検討します。

委員：保護者向けアンケートにおいて、磐田北保育園の保護者も含めた意図は。

事務局：磐田北小学校から距離が近く、また本検討会においても保護者代表に参加していただいているため。

委員：保護者向けアンケート設問４において、選択肢３「幼稚園児と小学生が合同で」と表記されているが、保育園の保護者から見た場合に違和感が生じないか気になる。また、教職員向けアンケートについても同様の設問も含まれているため、対象者と設問内容の整合についても確認した方がよいのではないか。

事務局：保育園も含めた表現となるよう検討する。

委員：複合化に関する設問について、賛成・反対の二択では極端すぎるため、回答しづらいと思われる。「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」といった選択肢を設けた方が、回答者の意向を把握しやすいのではないか。

事務局：賛否に加え、「どちらかといえば」を含めた５段階評価とする方向で検討する。

委員：小学校は地域のシンボルともいえる存在であるが、建替えについては地域に十分周知されていない状況である。そのような中で突然アンケートを実施すると、住民が戸惑う可能性があるため、進め方について検討した方がよいのではないか。

事務局：アンケート後にワークショップを行って地域の皆さんを巻き込んで進めて行く予定がある。そのため、地域住民が最初に関わる機会がアンケートになっている。先ほど説明したよつば学府の小中一貫教育の取組状況に加え、施設の老朽化の現状についても十分に周知されていないということです。スケジュールも踏まえながらではあるが、交流センター等を活用した説明会の開催など、アンケート前に実施できる周知方法について検討したい。

委員：建替えについては、現状では検討委員会関係者以外には十分に周知されておらず、多くの地域住民は状況を把握していないと思われる。そのため、地域住民を巻き込んだ形で検討を進めていただきたい。また、スケジュールはあると思うが、過去に市の条例を検討した際には、十分な議論を重ねた結果、当初の予定より期間を要した経緯もある。今回についても、スケジュールありきではなく、地域の意見を丁寧にくみ取りながら進めていただきたい。

委員：回覧板や学校だよりなどを活用し、「施設の老朽化により建替えを検討していること」や「今後アンケートへの協力をお願いすること」などを事前に周知してはどうか。

委員：保護者の中には学校施設の現状を十分に知らない方も多いと思われる。学校見学を含むワークショップ等を実施し、現状を理解した上でアンケートに回答してもらう方がよいのではないか。

委員：地域住民向けアンケートについて、避難所に関する設問を個別で設け、実際に長居することを想定した場合に、どのような施設であれば過ごしやすいか意見を把握できるようにしてはどうか。

事務局：現在、小学校の体育館が避難所に指定されているものの、雨天時には交流センタ

一も使用していることから、そのような利用実態も踏まえた意見を把握するのも重要と思われる。

委員：児童向けアンケートについては、性別の設問はなくてもよいと思った一方で、更衣室やトイレなど、特に小学生の高学年については性別によって考え方が異なる事項もあると思われるため、男女でどのような意見の違いがあるのか把握できるようにしてもよいのではないか。

事務局：LGBTQ への配慮として「回答しない」の選択肢を設けているが、性別設問の必要性については改めて検討したい。

（８）協議事項

ワークショップ形式にて進行

（１）学校と地域について

～ワーク 10 分・意見共有 4 グループ×1 分～

A 班

- ・ 現在の課題として、バリアフリーへの対応不足、動線の使いづらさ、トイレの臭気など施設面の課題や地域活動への参加を呼び掛けても反応が少ないなど、地域とのつながりに関する課題が挙げられた。
- ・ 地域住民が気軽に交流でき、高齢者から子どもまで多世代が集える学校づくりが望ましい。
- ・ 地域住民が学ぶ場や、地域の人から子どもたちが学べる環境を整備することが重要との意見があった。
- ・ 地域の歴史・文化を学び、郷土への誇りや愛着を育むとともに、歴史と AI など新しい技術を組み合わせた学びを取り入れることが提案された。
- ・ 実現に向けて、地域住民と子どもが交流する機会の充実や、地域住民がボランティアとして学校活動に参画できる仕組みづくりが必要との意見があった。
- ・ 地域文化の継承や生涯スポーツの推進も重要との意見があった。

B 班

- ・ 学校施設の老朽化に加え、建設当時と比べて教育ニーズや子どもの安全性への要求が変化しており、現在のニーズに対応できていないことが課題として挙げられ、それに関連して教員の負担が増加していることも課題として挙げられた。
- ・ 学校建替えにあたっては、図書館や自習スペースが充実している新しい学校を参考にしながら、学年を超えた交流の促進、子どもが使いやすく、安全な居場所を確保できるのが大事だという声があった。
- ・ 地域に関しては、若い世代の定住促進や地域活動への参加を進めることが重要との

意見があった。

- ・ 未来の姿への実現に向けて、関係者へのアンケートに加え、意見聴取を行うこと、学校施設を活用した交流の場を設けること、地域や企業が学校運営に参画する仕組みづくりが必要との意見があった。
- ・ 若い世代の地域活動への参加を促すため、役員報酬などのインセンティブを設けることも提案された。

C 班

- ・ 現在の課題として、「居場所」「教育」「コミュニケーション」の3点が挙げられた。特に、「コミュニケーション」について、保護者同士の交流が少ないことが課題として挙げられた。
- ・ 「教育」について、教員の働き方改革は進められているものの、依然として改善すべき点があるとの意見があった。
- ・ 課題解決に向けて、アンケートの実施や、若者・学生世代との交流や話し合いの場を設けることが提案された。

D 班

- ・ 全体的に「子どもの安全面」と「地域のつながり」についての2つのテーマについての意見が多くあった。
- ・ 子どもの安全・安心や、いじめのない楽しい学校生活を送られる環境づくりが重要との意見や、地域開放も良いが、子どもたちの学びや安全を確保できる環境づくりが第一であるとの意見があった。
- ・ 地域のつながりについては、現在は地域行事への参加が少なく、子どもたちと地域とのつながりが希薄になっていることが課題として挙げられ、子どもたちが地域活動に参加し、地域住民と交流する機会を増やすことが望ましいとの意見があった。

(2) 見付交流センターの複合化検討について（その1）

～ワーク 20 分・意見共有 4 グループ×1 分～

A 班

- ・ 現在の課題として、駐車場が狭いこと、エレベーターがなく高齢者や荷物を持った利用者にとって使いづらいこと、情報発信が十分でないことが挙げられた。
- ・ 児童クラブの専有面積が建屋内で大きい、包括支援センターの利用が多いといった意見があった。部屋数が不足していることや、学校施設と交流センターの設備が重複しており非効率であるとの意見があった。
- ・ 未来の姿として、多世代が交流でき、子ども連れでも利用しやすい施設づくりが望ましく、活動内容やイベントなどを分かりやすく情報発信することが必要との

意見があった。

- ・ 駐車場の拡充・集約や、広いフリースペース、飲食できる場所、気軽に相談や交流ができる場の整備が望ましいとの意見があった。
- ・ 放課後児童クラブは学校内で整備すべきとの意見があった。
- ・ 実現に向けて、バリアフリースイレやエレベーター、無料 Wi-Fi、十分な駐車場を整備するとともに、学校施設の地域利用や、子ども・障害者・高齢者を含む多世代が学びの場となることが望まれている。

B 班

- ・ 現在の課題「ないないシリーズ」として、駐車場が少ない、エレベーターがない、空調がない、Wi-Fi がないなどの設備不足や施設の老朽化が挙げられ、時代に合わせたバリアフリー化や設備更新が必要との意見があった。
- ・ 利用者が多く予約が取りにくいいため新規利用者が利用しにくい一方、利用されていない部屋もあり、利用状況を踏まえた施設運営が必要との意見があった。
- ・ 高齢者や子どもの利用は多い一方、若者・社会人世代の利用が少ないことが課題として挙げられた。
- ・ 子どもの無料開放を実施しているものの、駐車場で遊ぶなど利用マナーに関する課題もあり、中高生を含めた子どもが自由に過ごせる居場所づくりが必要との意見があった。
- ・ 未来の姿として、世代を問わず、趣味・スポーツ・健康づくりなどを通じて交流できる施設が望ましいとの意見があった。
- ・ 十分な駐車場の確保に加え、子どもが自由に過ごせるスペースや、子育て世帯が気軽に集まれる場を整備するとともに、若い世代の関心を引くコンテンツやイベントが必要との意見があった。
- ・ 実現に向けて、「ないないシリーズ」の解消をはじめ、施設設備の充実、利用団体の事務局スペースの確保、若い世代の職員配置など、利用・運営の両面から工夫が必要との意見があった。

C 班

- ・ 現在の課題として、利用者が子どもと高齢者に偏っており、若者・社会人世代の利用が少ないことから、子どもの居場所としてのイメージが薄く、施設の使いづらさも要因の一つとの意見があった。
- ・ 実現に向けて、若者世代が交流センターの企画・運営に参画できる仕組みや、参加しやすい時間帯・利用方法を検討することが必要との意見があった。
- ・ 複合化にあたっては、北小学校の児童数が多いことを踏まえた施設計画を検討すべきとの意見があった。

- ・ 子ども、高齢者、若者を含むすべての世代が利用しやすく、安心して過ごせる施設づくりが重要との意見があった。

D 班

- ・ 現在の課題として、若者の利用が少ないことや、エレベーターがなく高齢者にとって利用しづらいことが挙げられた。
- ・ 未来の姿として、会議室の充実やカフェの併設などにより、年齢を問わず気軽に利用・交流できる施設が望ましいとの意見があった。
- ・ 実現に向けて、若者向けの夜間利用や学習スペース、放課後児童クラブの整備、バリアフリー化や送迎サービスの充実が必要との意見があった。
- ・ 防災面では、安全な避難所としての機能強化が必要との意見があった。
- ・ 実現に向けて、施設の高層化や1階に倉庫やピロティを設けることによる浸水対策や、小学校と体育館を一体的に利用できる施設整備が提案された。

<質疑応答>

会 長：しっかり準備して頂いていて非常にたくさんご意見をいただき素晴らしい内容でした。今日の内容は、また改めてまとめた内容を報告いただきます。全体を通じてご意見ありますでしょうか。

委 員：第1回検討会に参加できておらず、北小の児童数の減少を踏まえて複合化を検討していることを先ほど聞いた。アンケートを実施するにあたって、複合化を検討している背景や目的について、やはり丁寧に説明する必要があるのではないか。

事務局：複合化の事例の中で、児童数減少により空いたスペースを地域で活用するといった事例もある。アンケートを実施するにあたって、資料の添付や説明会などを検討する。

会 長：本日の質疑の中であったように、ステップを踏んで進めて行きたいと思います。本日の議事は以上となります。

(9) 連絡事項

事務局：副会長の八木委員より、次回から検討会委員に1名追加のご提案がありました。では、八木委員からご説明をお願いします。

八木委員：見付地区地域づくり協議会理事の「太田和孝さん」です。令和8年度の地域づくり協議会の役員に交代があり、昨年度まで本会委員の「鈴木きよみさん」が福祉部長と防災部長の理事を兼任されていましたが、今年から大石さんが福祉部長として理事に就任されたということで本会にも委員としてご参加していただくべく、推薦するものです。

事務局：本検討会要領では、委員の定数を25名としています。現在23名で、2名余裕があ

るため、特にご異論がなければ、後日、教育委員会からの委嘱をもって委員に選任させていただきます。

教育長：本日、たくさんのご意見をいただきありがとうございました。複合化については、ここを市内のモデル地区のようにしていきたいと考えています。よつば学府は小中一体の施設ではないC型の方向ですが、複合化は人口減少の中で今までと同じ施設規模での建替えは難しい状況の中でそれぞれの機能を保ちつつ共有部分を作っていこうとする考え方です。校舎の老朽化や児童生徒数の状況、複合施設のメリット・デメリットなどについて、まず地域の皆様に十分理解していただいた上でアンケートを実施すべきとのご意見を踏まえ、スケジュールの見直しを検討していきます。今後、説明会の開催や事例の紹介などを行いながら、保護者、教職員、地域住民との対話を重ね、ワークショップと併せてアンケートを実施するなど、より丁寧に進めていきたいと考えています。見直したスケジュールについては、次回以降の検討委員会で改めて提案します。

事務局：本日のワークショップの内容については、要点を整理した分かりやすい形で取りまとめ、できるだけ早く委員の皆様へ共有します。なお、第3回検討委員会は9月の平日夜間に開催する予定であり、日程調整の上、1か月前を目途にご案内します。以上で、第2回「磐田北小学校新たな学校づくり検討会」を終了します。ありがとうございました。

以上